

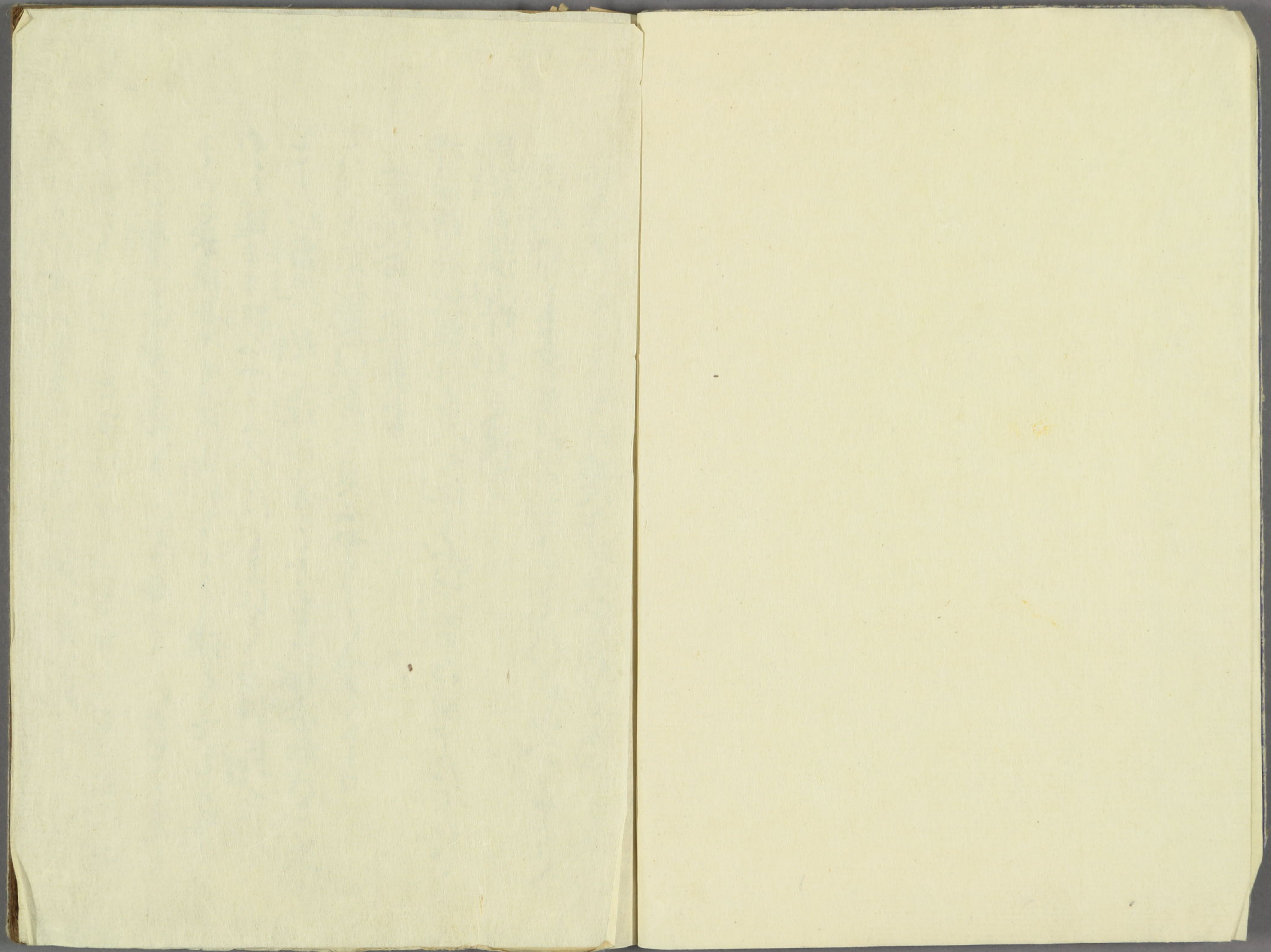


車勢物語 蘭疑抄 一

特別
イ 4
3163
208(d)



貴
14
3163
208(1)



いりやありえん伊勢も他と子
あしあ尻書と文雖変之ん中秘密の上真そ他人推
而難注之ん可謂其自書歟

ん中の秘密といふやうかといふも其の上の真云といふ
てありんか事と云んれ他人のひさきあめとも

いひびりもといひく自書と云べしと書り

但般万葉古風中ぬ撰集叙仁和聖日之間紀原章
之載定家自名書思本云仁和二年十二月十四日行筆
行河或本不云と多印載之不可止

万葉の古弁ともむいひの内へを載きり又仁和の印
の行河行筆の事といひり仁和聖日之間紀原
原章之載と云んれ是と云りは事兼平没後の事と

されい自云といふんも又いふこと

い等事又不雷伊勢が家集を瑞文抄偏以同之是
又見え連旧記庶幾主祈歎あ不云

これ等の事又不雷自云といふんともいへ

兼平没後の事あつて自云と云んれと云ん中し
秘密の上の真そ他人と云んれは事と云んれなり又
伊勢も他た文抄といふことと云んれは事と云んれ

まかへえ連の旧記の體と後人庶幾してあせく

あつて等事も云べしと也の両不云といふこと
おとけは拍流名字北波也者祈稱伊勢平

は拍流と定家といふは伊勢が事なることと云んれ
也たつとやうに云りつせうかすまゆそ伊勢拍流と

いんやと也

愚本定家卿

事云

赤川行幸事或本不云云
多不云云
三条西殿之家事不云云

此のれなるも伊勢へ下向依ひ号わること云々

よせられざるを

或説云為將使下向伊勢の云々其説又誰信始則哉
南京喜目之河次又江面對赤川之思富士山之雷成蔵
野之烟九北伊勢國事多云云其説又誰信始則哉
其云不審古事六作而可信

伊勢へ下向依ひ号わること云々
相傳の事也此相傳の所云は北と云々

故ハ初段よま月之里ありて
と云々西の對長月と云々月やわらぬまや昔の
云々名奇と云々又東國下向の事云々けく富士山の
雲じと云々野の極ありて云々く此相傳の名を
將の使の事云々云々出云の地たる是と云々
云々此使よらぬ事云々肝心と云々云々
説云々不審と云々伊勢が地化ある名付たるも
又將使の事云々云々名付たるも云々
云々唯傳而云々云々相傳の名と
云々云々云々云々云々の面白さ云々
云々教大切の事あり

又或説後人以將使事改為云々子孫傳為伊勢物

清之道也。本復舊奇。恆者也。伊行不為也。不用也。
又或流は後人が刺得使のふと肝心と云々。象はあべふら
よひ。拙流のくく。よあふるか。わの。云々。道新曲事
の故。是伊行が流也。伊行の世尊寺の先祖をわ
建礼門院。右京太夫。かたり一切。治ま。ふる者。あ。く。流
云々。云々。平。海。抄。あ。と。伊。又。舟。道。も。海。の。名。と
海。の。名。を。わ。の。あ。り。さ。れ。も。い。流。の。あ。や。ま。ん。つ。の
不。用。と。い。ひ。わ。り
先。年。あ。ま。り。か。わ。る。入。の。借。失。の。お。致。流。が。ま。而。不。校。合。也。
戸部尚書判

是まきぐ世間流布の一本の奥也。これどもいかに
舟人お侍して。お物とる。も。や。え。と。三。条。西。殿。も。い

写し。も。道。遠。院。あ。ら。と。稱。名。院。あ。三。光。院。あ。も。こ。の
奥。の。趣。と。海。一。流。の。の。惟。流。抄。も。い。故。と。標。の
注。せ。れ。き。り。又。天。福。の。中。と。云。い。六。本。の。小。中。わ。ら。と。そ
の。中。の。わ。ら。あ。ら。ん。

業平 行平 紀有常 二条后 河原太右
頼の侍を介せ。物。物。あ。も。こ。も。奥。あ。ら。ん。

天福二年正月廿日己未甲子。凌。業。門。之。首。目。連。日。風
雲。中。道。び。吞。写。る。授。經。也。之。疎。也。

同二十二日授平 いかんか判あり
後。御。門。院。ら。と。道。遠。院。あ。ら。と。稱。名。院。あ。ら。と。道
遠。院。あ。自。筆。一。字。と。ち。ぐ。と。ま。ら。ん。一。字。今
り。三。条。あ。あ。ら。有。致。中。と。い。く。一。字。も。遠。玉。字。之

後成恩ちあひ抄めも昔は勿論當代の事として昔
と云ふ事なく一々い教瑞の河を好持也尚春の
序めも古者伏儀氏之王天下也と云も昔と云ふ事
多ししちなり源氏物語より後世の河を好持也尚春
わきまをわきまひいふ事と云はれん事なく一々い
い物語よひいとわきまをわきまをわきまをわきま
あとのらよりしてい文勢しし一男と業平と云
お前の院わらふ事なく一々い男と云ふ事なく一
しむたると男と云ふ事なく一々い男と云ふ事なく一
うわがかりし

禪院の叙爵の事とわきまをわきまをわきまをわきま
事と云も澄云一と臣潜と云ふ事なく一々い井
ありと云も務き事なく一々い分き事なく一々い元服の人の
お方のよりい信神の事とお業平の二つのもはやくは
一々い元服のよりい信神の事とお業平の二つのもはやくは
のせりありありと云ふ事なく一々い分き事なく一々い元服の人の
弁めくさけし事なく一々い

かの京ま目の事と云ふ事なく一々い分き事なく一々い元服の人の
しめひありしてかの京ま目の事と云ふ事なく一々い分き事なく一々い元服の人の
はやくと云ふ事なく一々い信神の事とお業平の二つのもはやくは
わきまをわきまひいふ事と云はれん事なく一々い分き事なく一々い元服の人の
天皇もたよりし事なく一々い分き事なく一々い元服の人の
親王の四子女くなく事なく一々い分き事なく一々い元服の人の
まはり御跡なり事なく一々い分き事なく一々い元服の人の

ガサラ 魚起しひびりてわりのいとうくふなる二系^{ノキヤキ}居くわひ
しと^{ノキ}系平名^{カウシヨク}巻のぬ色なれいなる一又系平忠
仁^{ニニヤク}家^{ラジ}礼の人なれい二系^{ノキヤキ}居くもあ^{ノキヤキ}く^{ノキヤキ}ま^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}や
あ^{ノキヤキ}な^{ノキヤキ}い^{ノキヤキ}あ^{ノキヤキ}う^{ノキヤキ}す^{ノキヤキ}る^{ノキヤキ}次^{ノキヤキ}なる^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}細^{ノキヤキ}く^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}入^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}れ^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}信
の物ともな^{ノキヤキ}ぶ^{ノキヤキ}や^{ノキヤキ}ひ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}も^{ノキヤキ}海^{ノキヤキ}系^{ノキヤキ}之^{ノキヤキ}度^{ノキヤキ}危^{ノキヤキ}系^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}書
つ^{ノキヤキ}も^{ノキヤキ}是^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}く^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}歌^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}ま^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}せ^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}なる^{ノキヤキ}
わ^{ノキヤキ}り^{ノキヤキ}い^{ノキヤキ}わ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}ひ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}居^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}福^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}あ^{ノキヤキ}ん

ひ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}神^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}は^{ノキヤキ}く^{ノキヤキ}も
常^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}い^{ノキヤキ}奇^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}心^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}わ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}く^{ノキヤキ}ふ^{ノキヤキ}わ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}津^{ノキヤキ}乃^{ノキヤキ}宿^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}だ
神^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}波^{ノキヤキ}物^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}神^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}て^{ノキヤキ}な^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}た^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}あ^{ノキヤキ}り^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}ん
万^{ノキヤキ}葉^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}
即^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}家^{ノキヤキ}も^{ノキヤキ}何^{ノキヤキ}せん^{ノキヤキ}八^{ノキヤキ}重^{ノキヤキ}津^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}宿^{ノキヤキ}も^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}

と^{ノキヤキ}あ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}や^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}奇^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}心^{ノキヤキ}なる^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}も^{ノキヤキ}津^{ノキヤキ}生^{ノキヤキ}て^{ノキヤキ}わ^{ノキヤキ}れ
を^{ノキヤキ}宿^{ノキヤキ}宿^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}神^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}て^{ノキヤキ}あ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}も^{ノキヤキ}だ^{ノキヤキ}ん^{ノキヤキ}あ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}
わ^{ノキヤキ}り^{ノキヤキ}い^{ノキヤキ}わ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}む^{ノキヤキ}れ^{ノキヤキ}う^{ノキヤキ}て^{ノキヤキ}あ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}も^{ノキヤキ}甲^{ノキヤキ}ね^{ノキヤキ}な^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}云^{ノキヤキ}ん^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}も
ん^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}系^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}何^{ノキヤキ}せん^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}基^{ノキヤキ}も^{ノキヤキ}八^{ノキヤキ}重^{ノキヤキ}津^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}
宿^{ノキヤキ}小^{ノキヤキ}や^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}く^{ノキヤキ}を^{ノキヤキ}神^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}云^{ノキヤキ}奇^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}心^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}も^{ノキヤキ}津^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}宿
一^{ノキヤキ}わ^{ノキヤキ}り^{ノキヤキ}い^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}心^{ノキヤキ}も^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}あ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}も^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}云^{ノキヤキ}い^{ノキヤキ}わ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}
な^{ノキヤキ}く^{ノキヤキ}云^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}ん^{ノキヤキ}あ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}く^{ノキヤキ}詞^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}た^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}ぬ^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}雅^{ノキヤキ}治^{ノキヤキ}つ^{ノキヤキ}の
一^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}云^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}宿^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}わ^{ノキヤキ}り^{ノキヤキ}い^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}あ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}も^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}
た^{ノキヤキ}つ^{ノキヤキ}く^{ノキヤキ}や^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}い^{ノキヤキ}わ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}も^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}云^{ノキヤキ}い^{ノキヤキ}わ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}宿^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}秋
の^{ノキヤキ}た^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}れ^{ノキヤキ}新^{ノキヤキ}古^{ノキヤキ}今^{ノキヤキ}秋^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}部^{ノキヤキ}お^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}わ^{ノキヤキ}り^{ノキヤキ}い^{ノキヤキ}か^{ノキヤキ}して^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}
と^{ノキヤキ}も^{ノキヤキ}い^{ノキヤキ}う^{ノキヤキ}せ^{ノキヤキ}ん^{ノキヤキ}び^{ノキヤキ}た^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}れ^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}た^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}か^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}
新^{ノキヤキ}千^{ノキヤキ}裁^{ノキヤキ}
わ^{ノキヤキ}り^{ノキヤキ}い^{ノキヤキ}わ^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}ら^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}神^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}津^{ノキヤキ}の^{ノキヤキ}宿^{ノキヤキ}一^{ノキヤキ}何^{ノキヤキ}と^{ノキヤキ}も

隠密カシニツとて海を渡りぬらぬはぬかこニハモシ壇門ニハモシよりいへり
てわぬ道ミチとてやあそくかよこば物流の面白ウツクシと云
古今あそくも志まきり物流の細コトとてまよこまきと
公事コトたかひ古今あそくはわらと地カキのうらまきよりと
云り是又ツラ豊ユキとて舞キ持トクたる巻法マキは是も物流モノ流
きつりつりのあそくわけまほはぬらぬ崩クツシといひま
ふおちり

今もいもわぬたたいおちたれと云れいあそくま
りてとて通カヨひ流ガは秋アキとてふ人とすつとぬりせま
まいつりともえわりとぬつとあそりそよまゆれ
まよひつちたれと云れいと云わとわらべー伊勢イセか
海ウミのわらべ浦ウラお引綱ヒキツナもたひかたれわらぬまゆり

い舞マユい物流モノとていもあそひいとあそくまゆり又
よまよとてあそくまゆりといとあそくわらべー伊勢イセか
津ツあアのノ名ナかり

今イマ
今イマれお我ワかひいらの笑エガ守モリは
いひつとていもあそひいとあそくまゆり

二舞ニマユよとてあそくまゆりといとあそくまゆり又
まよとてあそくまゆりといとあそくまゆり又
なまよとてあそくまゆりといとあそくまゆり又
やまよとてあそくまゆりといとあそくまゆり又
二条ニジョウの名ナはあそくまゆりといとあそくまゆり又
なちろよまよとてあそくまゆりといとあそくまゆり又

津ツあアのノ名ナはあそくまゆりといとあそくまゆり又

後亦もあつたといふ人なるはよふと云ふつて奇の心
現の事ハ云り不疑ゆめ人ノ事ぬと云リ
ぬありたりといひはあつて和面自とかなる後
いふはわりのひせりやと云

富士の山といふは六月のほつりまに雪とありし
河をぬ山を富士の山といふ

かのこもつていふのあり

山の名を云と云てきり河をぬ山を富士の山といふ
たりこもつていふは六月のほつりまに雪とありし
なりひてく富士の根の雪の高と云りかのこも
をさへいひくといふ雪は山の根の雪と云り
云ふ山のわさ戸山のおり

其山はあつた人いひはれ山といふと云らるる
なるといふ人いひはれ山といふと云らるる
天福本或説云温鹿寮温と云物も其鹿寮温といふ物
深澤蓮村信用は説先人命彼唯温鹿寮温といふ物
之心得とて云ふ人律年有尋同人意不知之由云
動物は異る

山たるは六部のひえの山と十計と云をされてハ
と云らるる山二十と云り伊珠が山と云
志かりの事定家動物といふと云り或説云鹿
深澤蓮村信用は説先人命彼唯温鹿寮温といふ物
山を或本といふかの其後末通先人命は説
凡早之不可用之といふと云らるる伊珠が山と云
同人之言不疑之由といふ説は極くよと云

みまゝの傳ワケく鳥ハヤの浦ウラつ行ツキ後ノチへ京キョウより移ウツリて人
親オヤ親オヤ又またたり人ヒトをくまへ一ヒト鴨カモの太オホささ鴨カモのやう
めくそまきよつと太オホさなり多オホくつかり背セウせり
しほの黒クロ腹ハラは白シロく鴨カモの太オホさく太オホさる鳥トリつて人ヒト
鴨カモのせうんセウオンなるはくはな
京キョウよりかへぬもされいふ人ヒトをくまへとトはハ守モリ一ヒトと
くれとこれな人ヒトをくまへとつとよとよと
名ナありナはくはなとつと人ヒトをくまへとつと
古コ今イマ

我がゆへはわつとやなヤナ
いさ紙シと人ヒト部ベ鳥トリと云イハり我ワがつツの名ナとて一ヒトあり
つと部ベと云イハる名ナとつとらて名ナありはくはなとつと
部ベの事コトとつと一ヒト我ワがゆへはくはなとつとつとつとつとつと

名ナやわらワラ背セウ圓エン一ヒトじジとせとつとつとつとつとつとつとつと
ふけとせとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
さ鳥トリ方カタとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
并ナラとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
もいさつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

とありんたタとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
船フネ中ナカの傍ナド人ヒトの感カン涙ナミとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
船フネ中ナカの人ヒトをくまへとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
あつとつとつと

じ一ヒト男オトコじジの國クニを申マウひわつとつとつとつとつとつとつと
國クニ一ヒトとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

人あて母あんちうらうらからりたれそめんあてちうら
やたひひあてのむらうらうら強くたてをりたるむら
おらんつ家の郡たうらの里かりたる

は女維たあていひいあていひいあていひいあていひいあ
ひひ道と家あていひいあていひいあていひいあていひいあ
業平あてちうらあてちうら高貴又勝又富字
とつふまんあてちうらあてちうらあてちうらあてちうら
真人信姓のあてちうらあてちうらあてちうらあてちうら
しうあてちうらあてちうらあてちうらあてちうらあてちうら
氏い貴族とて氏とていひいあていひいあていひいあていひいあ
あの人あてちうらあてちうらあてちうらあてちうらあてちうら
あてちうらあてちうらあてちうらあてちうらあてちうら

量之源氏に兼ていひいあていひいあていひいあていひいあ

みう野のそめむらうらあてちうらあてちうらあてちうら
あてちうらあてちうらあてちうらあてちうらあてちうら

みうの里大和武彦丹後三和よ有たのむらうら
田面いひいあてちうらあてちうらあてちうらあてちうらあてちうら
むらうら氷直自いひいあてちうらあてちうらあてちうらあてちうら
かりあてちうらあてちうらあてちうらあてちうらあてちうら

しひいあて

あてちうらあてちうらあてちうらあてちうらあてちうら
あてちうらあてちうらあてちうらあてちうらあてちうら
あてちうらあてちうらあてちうらあてちうらあてちうら
あてちうらあてちうらあてちうらあてちうらあてちうら

二十五年の事と云はれし前よせん事なきて
つらうまんとうふおひ秋の死なり

とかんひらの國にともたう所をかんやまうりたる

とめん初任の巻法ヒツホウ人の國をも他國をもく

ぬまのふやまさと三ツ星は作者の領地他國よて

き月控わのふさりてしこ

しにたこわのまふいふふよあつらひり
みらりりひひとせたる

ひと家のよ福は書井よぬぬ

おつら月ツキのめぐりわふ

拾遺チウイ弟八ヤチ直轄チキヤクが奇キとさび拍次ハチの業平

の奇キとさび古歌コカ百景ヒャクケイの奇キとさびとひくさる

多一組タヒツも一ヒツ流リウとく梅名院ウメナノイ殿テン新ニヒ美ミよ直轄チキヤクの奇キ

かゝる人のむしとあよまれひらりひりたるはま

おはるるやうくひ女ののしりひりうりたる

橋ハシ直轄チキヤクのわらうけいこ秋アキわらうと河カハすよ橋

つたりし人のむしとあひらる業平の奇と美

よ細合ホソアヒをたれい事コトと送オウりたるあそとすひ美

ねり流ナガ一福フクの書井シヤウヰよぬぬとひらひら

一清シヤウのわらうけいこ秋アキわらうと河カハすよ橋

ふあ

す一男オトコ有アルるも人のむしとあひらる

野ノのあひらる福フク一盗ヌス人ヒトのむしとあひらる

りらるるのむしとあひらるの中ナカあひらる

多岐のあつちの人は野に盗人もありて大波らん
とぞあつちひて

おは地物波の浪かれば死なむとす家(國)の

ようりあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

守りて

國のこのよれた女と具してあつちのあつちの

の飛(カキ)

昔しあつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

あつちのあつちの人は野に盗人もありて大波らん

